



一般社団法人 日本物理学会

日本物理学会領域2 運営会議

日本物理学会第78回年次大会

2023年9月17日12時15分～13時15分

東北大A307会場

物理学会領域2運営会議 アウトライン

- 1) 2023年10月からの役員体制・役割分担
- 2) 2024年4月からの領域代表、副代表の推薦
- 3) 2023年春季大会 学生優秀発表賞に関する報告
- 4) 米沢富美子記念賞 授賞候補者の募集について
- 5) 2024年春季大会シンポジウム・招待講演等の提案
- 6) 領域委員会報告
- 7) 領域2での確認事項と議題
- 8) 講演件数の推移
- 9) 講演概要集提出率
- 10) その他

1. 2023年10月からの役員体制・役割分担

(2023.4～2024.3)

領域代表 藤堂 泰 (核融合研)
領域副代表 長崎 百伸 (京都大学)
領域前代表 千徳 靖彦 (大阪大学)

(役員 2021.10～2024.9 : 領域委員 2021.4～2023.3)

役員 藪内 俊毅 (高輝度光科学)
役員 四竈 泰一 (京都大学)
役員 斎藤 晴彦 (東京大学)

(役員 2022.10～2025.9 : 領域委員 2022.10～2024.9)

役員(領域運営委員) 佐々木 真 (日本大学)
役員(領域運営委員) 三瓶明希夫(京都工繊大)
役員(領域運営委員) 菊池崇志(長岡技科大)

(役員 2023.10～2026.9 : 領域委員 2023.4～2025.3)

役員(領域運営委員) 徳澤 季彦 (核融合研)
役員(領域運営委員) 松山 顕之(京都大学)
役員(領域運営委員) 安部 勇輝(大阪大学)

	2023.10からの役割分担
大会(プログラム編集・会場設定)	三瓶(正)、佐々木(副)、松山、安部、斎藤
運営委員の連絡責任者	佐々木
シンポジウム・招待講演・企画講演	菊池(正)、三瓶(副)、徳澤、藪内
企画セッション	菊池、安部
3学会合同世話人	菊池(正)、安部、藪内
チームとの合同セッション担当	菊池(正)、安部、藪内
表彰・若手賞	長崎(副代表)、徳澤(共同研究世話人)
学生優秀発表賞	藤堂、長崎
学生優秀発表賞担当	斎藤(正)、佐々木、松山
会計・予算	藤堂(代表)
学会連携	稲垣、藤堂、四竈、佐々木、松山
広報(ホームページ)	徳澤
メーリングリスト	徳澤
編集(JPSJ)	長崎(副代表)
役員会・運営委員会幹事(書記)	三瓶(正)、四竈
NIFS共同研究所内世話人	徳澤

2023年10月で任期終了の役員

(役員 2020.10～2023.9 : 領域委員 2020.10～2022.9)

役員(領域運営委員) 本島 巖 (核融合研)

役員(領域運営委員) 相羽 信行 (量研機構)

役員(領域運営委員) 福田 祐二 (量研機構関西)

2024年10月からの次期役員のおすすめ

- 2024年春季大会での領域2運営会議
- 役員への立候補を希望される方は領域代表まで連絡を(年内)。

2. 2024年4月からの領域代表、副代表の推薦

次期領域代表 長崎 百伸 さん (京都大学)

次期領域副代表 比村 治彦 さん (京都工芸繊維大学)

10/23(月) までに、物理学会事務局指定の推薦フォーム入力

11/?(?) 領域委員会において承認の予定

3. 学生優秀発表賞受賞者報告

2023年春季大会 (online) での受賞者

吉野 舜太郎 氏 (東北大院情報)

「特殊相対論的プラズマの拡張MHD近似の妥当性検証」

Zechen Lan 氏 (阪大レーザー研)

「High-speed Atomic Thermometer using Single Shot of Laser-driven Neutron Pulse」

韋 添允 氏 (阪大レーザー研)

「The experiment demonstration of quasi-mono energetic deuteron acceleration by in-direct laser shot」

矢ヶ崎 誇楠 氏 (名大院工)

「NUMBERの再結合プラズマ生成実験における高励起準位からの発光の観測」

Joseph John Simons 氏 (SOKENDAI)

「Utilization of Collisional-Radiative model to analyze Doppler-free spectra」

※応募者数29名の中から5名を選出。前回は37名の応募があり、そのうち5名を選出。

※2018年秋季大会から、学生優秀発表賞は日本物理学会が授与する賞となった。

※2021年秋季大会から、授賞回数の上限を2回とした。

4. 米沢富美子賞(2024)の募集について

授賞の対象者

日本物理学会（以下、本会）の女性会員で、**2023年10月末日**において**最終学位取得後15年以内の方**（**最終学位が修士、学士の場合はその学位取得後**）。諸事情により物理学分野での活動に空白期間があれば、その年月は考慮いたします。

評価対象

米沢富美子記念賞（以下、本賞）の選考においては、研究業績、物理学教育活動、本会活動への貢献、その他物理学分野の発展に関わる社会的活動などの業績一般を評価対象といたします。本賞は、本会が授賞する他の賞からは全く独立です。

毎回5名程度を上限として若干名。

表彰式は2024年9月 第79回年次大会を予定

受賞者は、賞状等の記念品、1年以内の大会での記念講演の他、副賞として、(1) 向こう3年間の大会参加費・概要アクセス権、(2) JPSJ掲載料・オープンアクセス化権もしくはPTEP掲載料から総計20万円分の免除（受賞後の投稿につき3年間有効）が与えられる。

領域2から、2名を上限として授賞候補者を推薦することができる。

領域2 の締め切り：**2023年10月20日（金）**（学会へは10月25日）

提出先：領域副代表 **長崎**（nagasaki.kazunobu.4x@kyoto-u.ac.jp）

5. 春季大会2024年 シンポジウム等の提案

学会の公募受付は10月下旬～11月上旬

提案者は、**10月20日(金)までに**役員会へ案を提出するようにお願いします。

運営会議後は役員会にて審議

- 企画講演(0件提案)
- 招待講演(0件提案)
- 若手奨励賞受賞記念講演(最大2件)

今回から応募を自薦に変更した。意見を聞ける人2名は必要。

- シンポジウム(0件提案)

企画セッションの提案

企画セッションは他領域との合同も可能である。

新規提案

「メタ視点から探る階層ダイナミクスの新展開」
(セッション略称 メタ階層ダイナミクス)

提案者 小林進二氏、加藤雄人氏、後藤基志氏

6. 領域委員会(2023年5月29日)報告

新領域「計算物理」について

- 新領域の試行開始から3年を目途に、新領域設置の可否を領域委員会で判断する。
- 試行開始から3年間、新領域のセッションは年会のみ(年に1回)開催し、新領域での登壇を登壇数制限から除外する。
- 既存領域と新領域との合同セッションを組むことで、既存領域への影響を最小限にとどめるよう、プログラム編成を工夫する。そのためには、講演申込時において、新領域を主領域として申し込んだ場合には「副領域(または関連領域)」として関連する既存領域を選択し、逆に既存領域を主領域として申し込んだ場合には「副領域(または関連領域)」として新領域を選択することを推奨する。
- 上記の形式で講演申込を行うことによって、若手奨励賞の受賞者上限数に関して、講演数が主領域と副領域(または関連領域)の双方に加算されるというルールとして、既存領域への影響を最小限にとどめられると考えられる。
- 関連発表の実績2023年春141件2022年秋116件

6. 領域委員会(2023年5月29日)報告

新領域「計算物理」について

理事会から提案のあった「計算物理」に関する新領域の設置に向けた試行について、委員長および副会長から説明があり、以下の意見および提案があった。

- 新たな「領域」として新設をせずに、各領域のキーワードや合同セッションで設定して行うことも可能で、また領域内部ですでに同様のことを検討中であった。
- 合同セッションの調整作業が大幅に増え、領域委員の負担が非常に重くなる懸念がある。
- 物理学会の領域新設手順には「領域の区分は物理学の内容・主題によるべきであり、研究の手法・手段によるべきではない」と記載があるが、この点は理事会で変更されたのか。
- 領域新設手順が、一般会員からの提案には適用されるが理事会からの提案には特例で適用されないという理屈は理解しがたい。まずは領域新設のルールを領域に共有してほしい。
- 試行期間には講演件数の算出方法等について最小限の影響になるよう特例措置が検討されているが、試行期間が終了したあとに影響が出るのではないか。

7. 領域2での確認事項と議題

Plasmaメーリングリスト(PlasmaML)の運用

添付ファイルは常識の範囲内で「1MB以下のpdf」

受賞報告をMLで配信可

不適切なメールは領域2代表の責任下で役員会の了承もと削除できる

学生優秀発表賞

一次審査の審査委員の人数を「3名」から「3名以上」とする

領域2での受賞回数を2回に制限する。

7. 領域2での確認事項と議題

シンポジウム、招待講演

時間は原則3.5時間以内。

招待講演候補者の招待講演対象論文の共著者は提案者になれない。○○Groupや○○Teamsに注意。

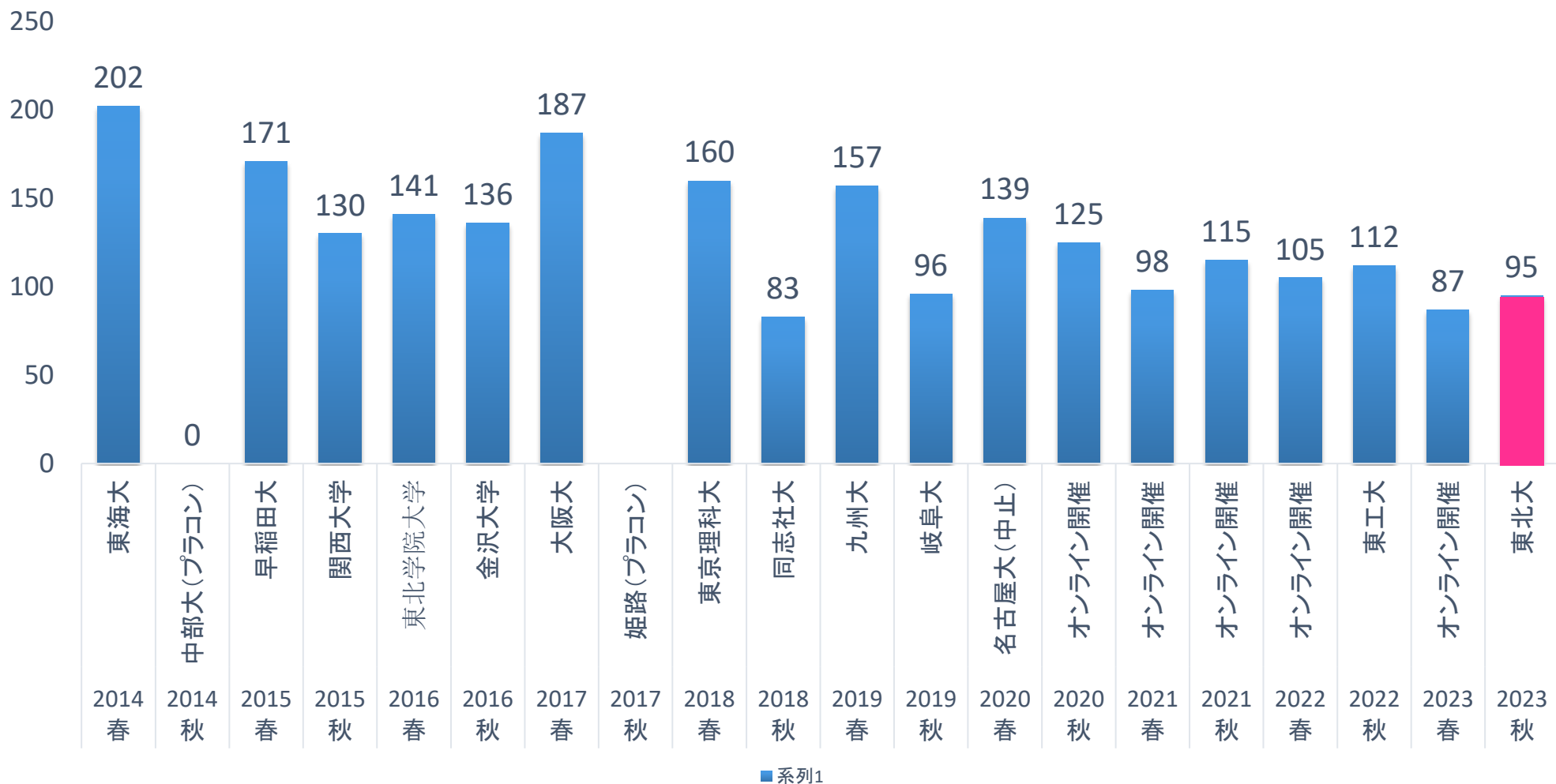
提案書では必ずreferenceを挙げる。

シンポジウム等でのonline登壇

シンポジウム提案の際に、申込み画面の内容説明欄などで、現地開催の場合もオンライン配信になる可能性がある講演があることを明記する。

→ 今後は現地開催でも対応可能であればonline登壇を認めてはどうか？ 英語化に関連してオンラインでの海外からの参加者の可能性を広げるという議論がある

8. 領域2講演数の推移



※Plasma Conference 2017 一般講演(物理:135件, プラ・核:415件)

- 2021年秋～2022年秋に企画セッション開催(発表12～17件). 2023年は企画セッションなし.
- シンポジウムの開催など, 講演数増加の対応策を検討したい.

9. 概要集提出率

*シンポジウム等含む

第78回年次大会（2023年）講演概要集提出率

領域	講演者数	論文提出数	論文提出率
領域1	179	160	89.3%
領域2	95	91	95.7%
領域3	210	207	98.5%
領域4	150	142	94.6%
領域5	203	200	98.5%
領域6	117	112	95.7%
領域7	82	79	96.3%
領域8	427	416	97.4%
領域9	111	109	98.1%
領域10	120	120	100%
領域11	342	318	92.9%
領域12	130	123	94.6%
領域13	76	76	100%
素粒子論領域	196	111	56.6%
素粒子実験領域	265	208	78.4%
理論核物理領域			
実験核物理領域			
宇宙線・宇宙物理領域	255	175	68.6%
ビーム物理領域	37	33	89.1%
物理と社会			
合計	2995	2680	89.4%

10. その他

10-1. 領域2懇親会

日時 9月17日(日)18:30~

会場 仙台キッチン(仙台駅東口)